

KICAフェスティバル2012(展示)レポート



2012年11月23日～28日まで横浜山手エリスマン邸にて「KICA フェスティバル2012」が行われました。

今回のKICAフェスは3連休が重なったこともあり、沢山の方にお越しいただきました。

また会期中、ひどい雨の日もありましたが、そんな中でもわざわざ展示を見に来られて、写真を撮られて帰られる方もいらっしゃいました。

今回KICAフェスでコーディネートしたのはエリスマン邸の1階部分です。

「KICAフェス2012」のコーディネートでは、リビング、ダイニング、そしてサンルームの3つの部屋でそれぞれシーンを変え、エリスマン邸を建築したアントニン・レーモンドが設計した家具を生かしながら、日本人ならではの「和」のしつらえを取り入れたコーディネートに致しました。

また、“五感を満たすおもてなし”をテーマに、全体を通して、五感(見る、聞く、嗅ぐ、味わう、触る)を満たすおもてなしをコーディネートに取り入れていきました。

その一つとして、リビング入り口付近にはKICAオリジナルのアロマの香りを漂わせるという演出もしました。KICAオリジナルアロマはこの展示のために作られた香りで、「フランキンセンス(おもてなし)」、「ベルガモット(あたたかみ)」、「オレンジ(あたたかみ)」、「ひのき(和のころ)」、「ユーカリ(空気の浄化)」の5つの香りをブレンドして作られたものです。訪れる方に上質な時空間を過ごしていただきたいとのKICAフェス実行委員会の方々の思いが込められています。

また、28日の「音の体感セミナー」では日常では体感できない音の波長で、訪れた方の聴覚を刺激し、まさに“五感を満たす”おもてなしを演出できたのではないのでしょうか。

それでは、それぞれの部屋のコーディネートについてご紹介したいと思います。

■ダイニングルーム

ダイニングルームには6名～8名が一緒に食事が取れる大きな長方形のダイニングテーブルがあります。

そして、ダイニングチェアは座面・背もたれとも六角形のものです。

また入り口右側には沢山の引出がある大きな楽譜入れがあります。

このダイニングルームで当時エリスマンは横浜で手に入った食材(パン・ハム・チーズ・ビール etc.)さまざまなものエリスマン氏の本国スイスから商談でやってきたスイス人ご夫妻のおもてなしをしたことでしょう。

「スイス&横浜」... そのシーンをテーブルコーディネートで表現しました。



■リビングルーム

リビングルームは、入り口真正面に天井の高さ程まである大きな窓があり、エントランスにある木々を通して優しい光が差し込んできます。

入って右側には暖炉、ピアノ、入り口そばにはキャビネットがあり、中心には六角形のテーブルとソファが置かれています。

リビングルームでは当時全盛期であった「シルク」そして「茶道」を取り入れたおもてなしをイメージしてコーディネートをしました。

また、入り口付近にはオリジナルのアロマの香りを漂わせ、香りでおもてなしもしました。



■サンルーム

ダイニングルームの奥、リビングルームの左側にサンルームが隣接しています。

こちらには長椅子が置かれています。

サンルームではエリスマンの妻、志満夫人が、スイス人ご夫婦のために心を込めて準備したギフトコーナーを演出しました。

プレゼントとして当時の横浜元町にあったであろう「横浜レース」を、プレゼントの包みは生糸貿易商であったエリスマン氏にちなみ、日本の絹を使った「風呂敷」で包みました。

屏風の緑の生地も絹のカーテン地で作成し、屏風の前にはエリスマン邸の設計者であるアントニン・レーモンド氏の妻ノエミさんに因んだ和紙でデザインした照明を置き、そして日本の自然を象徴する雪月花とエリスマン氏の故郷スイスの国花エーデルワイスを飾りました。



(レポート作成 M.F.)